市 民 情 報 提 供 資 料
企 画 財 務 部 企 画 政 策 課

オーストラリアにおける米海兵隊ＭＶ－２２オスプレイ事故の調査報告書について

平成２９年８月７日付広資料第６７号及び同月１４日付広資料第７０号でお知らせしたこのことについて、防衛省北関東防衛局より、別紙のとおり情報提供がありましたので、お知らせします。

オーストラリアにおける米海兵隊MV－22オスプレイ事故の調査報告書について

別紙

平成３０年５月２３日
防　　衛　　省

先般、昨年８月５日にオーストラリア東海岸沖で発生した、ＭＶ－２２オスプレイの輸送揚陸艦への着艦中の事故にかかる調査報告書が米海兵隊から公表。

１．事故の概要

- 現地時間１６時０３分頃、クイーンズランド州ロックハンプトン沖（東海岸沖）で、普天間飛行場の第３１海兵機動展開隊第２６５海兵中型ティルトローター飛行隊（増強）に所属するＭＶ－２２オスプレイが、ドック型輸送揚陸艦グリーン・ベイへの着艦中に船体と衝突して海に落下した。乗員２６名中３名が死亡し２３名が負傷した。

２．事故の原因

- 事故原因は、着艦の際にオスプレイ自体の吹きおろし（ダウンウォッシュ）が、グリーン・ベイの船体に当たって跳ね返り、オスプレイのローター（回転翼）に戻ってきたことによるもの。これにより、機体の左エンジン部分（ナセル）が甲板に衝突し、胴体が甲板下の右舷に衝突した後、海に落下した。
- こうした状況は、機体の重さ、風速の低さ、甲板の低さなどの要因が重なったことにより発生した可能性がある。（今回の事故は、５０，０００ポンド（約２３トン）以上の重重量、５～１０ノット（毎秒約２．６ｍ～５．１ｍ）の低風速、低い甲板（３６．３ｆｔ（約１１ｍ））への着艦という状況下で発生。）
- オスプレイの機体自体に問題はなく、すべての運用マニュアルの手順と制限に従っており、パイロットや搭乗員にも任務上の問題はなかった。

３．再発防止策

- ＭＶ－２２オスプレイの運用マニュアルを更新し、今回の事故が発生した状況下でのドック型輸送揚陸艦への着艦に関する手順を追加した。風速１０ノット以下でドック型輸送揚陸艦に着艦する際は、機体重量を４５，０００ポンド（約２０トン）以下とすることを規定した。
- すべてのパイロットに教育済みである。